

# Relief

[リリーフ]

2017  
APRIL  
Vol. 27

## CONTENTS

- 平成29年度公募助成贈呈式
- 平成29年度公募助成先一覧
- 平成28年度公募助成活動紹介
- 平成29年度AED訓練器等助成先決定
- 平成28年度いのちのセミナー
- 第13回連続講座「『いのち』を考える」
- 今後の催し等のお知らせ





贈呈式後の交流会で、これからの抱負をあらためてお聞きしました

龍谷大学世界仏教文化研究センター  
博士研究員 金澤 豊



被災者の苦悩を和らげる実践活動から仏教者独自の役割を明らかにし、他領域の研究者と連携し、自然災害時における仏教者による対人支援研究を行う研究者

「研究者の立場として、仏教者独自の役割を後の世代の人たちが迷わず活動できるようにわかりやすい言葉で明文化し、参考となる一つのレールを敷いていきたいと思っています。」(金澤 豊さん)

一般社団法人  
change関西支部



子どもたちの防災への関心を高め、地域防災力の向上を図るため、幼稚園児を対象に、楽しみながら学ぶ防災ミュージカルを各園で実施する団体

「地元である関西にもこの活動を広めたいと思い応募しました。まずは自分の命を守ることを子どもたちにわかりやすく教えたいと思います。」(代表 植田 恵理子さん)

特定非営利活動法人  
オーシャンゲートジャパン



事故や災害、不測の事態により心身のバランスを崩した人に対し、心の専門家や地域支援施設等と連携を図り、海洋セラピー体験を通じてストレスケアを行う団体

「障がい者の方等を対象に海洋療法活動を行っています。事故で車イス生活を余儀なくされている方にも生きる喜びを感じていただいています。」(代表 白杉 芳彦さん)

関西福祉大学市橋研究室  
ボランティア学習グループ



兵庫県赤穂市内の古民家を活用し、学生ボランティアによる不登校等の孤立化した子どもたちへの適応指導教室の機能拡充や防災講座及び防災訓練等を実施するグループ

「子どもたちが安心して集える場所をつくり、将来は教員や保育士となる学生の参加を通じて自助・共助能力を高めます。」(講師 市橋 真奈美さん [左] / 協力者 坂口 美智子さん [右])

若者活動サポートセンター  
あおぞら



平成26年広島市土砂災害の被災者の孤立防止や災害の風化を防ぎ、地域防災力の向上を図るため、定期交流会や交流カフェ・イベント、被災地視察・講演会等を開催する広島県の団体

「被災地域住民と区域外の避難者、そして若者パワーを活用することで皆の心が寄り添える交流の場を作っていきます。」(共同代表 秦野 英子さん [右] / 協力者 福原 直美さん [左])

たかしま災害支援ボランティアネットワーク  
「なまず」



福島第一原発事故の影響がある南相馬市において、生活者が自宅へ戻るための除染に先立つ障害物の除去作業の支援を行う団体

「私たちは素人集団ですが、少しでも現地のお役に立てるように体力の続くかぎりがんばりたいと思います。」(代表 太田 直子さん [右] / スタッフ 上原 初美さん [左])



# 平成29年度公募助成贈呈式を開催しました

JR西日本あんしん社会財団では、「いのち」に向き合い「安全で安心できる社会づくり」の一端を担いたいとの思いから、事故、災害や不測の事態に対する備えやその後のケア等「いのち」を支える身近な活動や研究を広く募集し、助成を行っています。  
平成29年3月23日(木)、平成29年度公募助成の助成先に決定した団体や研究者の皆さまにお集まりいただき、贈呈書をお渡しする贈呈式を開催しました。

当財団の佐々木理事長から各団体・研究者の方一人ひとりに贈呈書が手渡されました。

手から手へ。当財団と助成先の皆さまとの今後の活動、研究に向けた約束のシーンです。思いをこめて丁寧に贈呈書の授受が行われました。



贈呈書授受後は、各代表の方に今後の抱負についてスピーチしていただきました。

中には、資料を示しながら熱く語られる方もいらっしゃって、助成先の皆さまの今後の活動や研究に対する熱意が強く伝わってきました。



## 交流会での歓談の様子



交流会では、贈呈式での緊張がとけたのか、皆さまリラックスした表情で過ごされていました。各テーブルでは、それぞれの活動や研究に対する思いや情報を交換される姿がみられ、とてもよい雰囲気での交流が行われていました。

## 平成29年度へ向けて～より一層安全で安心できる社会へ～

インタビューした方を含めて59件の団体や研究者の方が、平成29年度公募助成の助成先として選ばれました。次ページには、その助成先を一覧で紹介しています。高いモチベーションを持って応募され、選ばれた助成先の皆さまです。それぞれの背景は違いますが、これから社会に貢献するさまざまな取り組みを一生懸命に行ってください。気になる活動や研究があれば、要チェックです。1年間はあっという間ですが、当財団もそれぞれの団体や研究者の方々にとっかかりながら必要なサポートを行い、より一層安全で安心できる社会の実現に向けて貢献していきたいと考えています。



# 平成29年度の公募助成先 59件が決定しました



## 【活動助成】事故、災害や不測の事態に対する備えに関する活動、発生後の心身のケアに関する活動

テーマ	団体名（50音順）
普段から社会的弱者を見守るためのコミュニティ生成型防災事業の実践	生きる力を育む研究会
災害時要援護者支援活動 / 稲野町と隣接地域社会と地域教育機関のコラボレーション ステップ3	稲野自治会
駅を拠点にした災害時被災者支援ツールの制作実装と協力関係づくり	特定非営利活動法人インターナショナル
病院主催による遺族会の開催	angel heart の家族の会
子どもとシルバー世代の防災訓練 ～小さな私たちにできること～	NPO 法人エンゼルネット
被災地でリハビリテーション支援活動を行うための人材育成と組織作り	大阪府大規模災害リハビリテーション支援研究会
障害者向けの心肺蘇生法と応急手当の開発と普及	特定非営利活動法人 大阪ライフサポート協会
海洋療法を用いたストレスケア	特定非営利活動法人オーシャンゲート ジャパン
グリーンケア	かなしみぼすと
不登校の子ども等支援を要する子どもを対象とした地域防災ネットワーク支援活動	関西福祉大学市橋研究室ボランティア学習グループ
聴覚障害者のための心肺蘇生法	北区救急ボランティア
災害時に活動できる人材育成	救援ボランティア左京
中京三団体災害対策部	京都市聴覚障害者協会中京支部
水害多発地域における子育て層を対象にした防災教材の開発	公益財団法人公害地域再生センター
電話相談ボランティア、自死遺族のわかちあいスタッフの他団体交流研修	認定 NPO 法人国際ピフレンダース大阪自殺防止センター
防災知識の向上と防災訓練	潮見小学校区防災会
連携・ネットワークを軸とした鍼灸とマッサージによる被災者支援対策	特定非営利活動法人鍼灸地域支援ネット
平成 30 年「1.17 阪神淡路大震災からの教訓」	特定非営利活動法人震災から命を守る会
「聖和防災ふえすた」「聖和ウォーキングパトロール」	聖和寄り合いまちづくり
change なりきりプログラム～幼児の為の防災教育～	一般社団法人 change 関西支部
慢性期高次脳機能障害者のグループ訓練後におけるフォローアップ及び専門職スタッフへの支援体制づくり	中丹高次脳機能障害者と家族の会「さくら」
外国人が災害時安全に避難できるための事業	特定非営利活動法人奈良国際協力サポーター
自死遺族サポート	虹玉の会 自死遺族サポート「虹」
たかつき川キッズ調査隊 ～川遊び安全マップを作ろう！～	特定非営利活動法人ノート
家族や愛する人を失った方々を支える。グリーンケア提供者を養成する。	はすの会
事故、災害等発生時における発達障害児への心理的サポート研修およびトラウマを抱える人のための相談会実施	特定非営利活動法人発達凸凹サポーターてくてく
児童が取り組む地域防災・減災活動のネットワーク構築	一般社団法人兵庫県子ども会連合会
スペイン語圏の住民への防災教育を通した、災害時に誰もが安心できる地域社会にむけた防災ネットワークづくり	ひょうごラテンコミュニティ
親子体験プログラム『はじめての防災キャンプ in 奈良』	一般社団法人 MintGreen
「やさしい日本語」を使った外国籍住民のための防災出前講座、「やさしい日本語」勉強会	「やさしい日本語」有志の会

水害フォーラムキャラバン3	特定非営利活動法人リスクデザイン研究所
～忘れない～ 4.25 追悼のあかり	忘れない 追悼のあかり実行委員会

[32件]

## 【活動助成（特別枠）】東日本大震災や平成26年広島市土砂災害に関する被災地・被災者支援活動

テーマ	団体名（50音順）
みんな一緒に勉強するっちゃ！ 石巻子ども学習サポート	アジア子ども基金
ふくしまキッズ 2017 夏 京都美山プログラム	特定非営利活動法人芦生自然学校
原発事故による避難者の見守りと交流活動	一般社団法人関西浜通り交流会
東日本大震災復興支援こども理科実験教室 2017	京都技術士会理科支援チーム
祇園地区「緊急災害時 子ども119番」避難訓練	祇園地区青少年健全育成連絡協議会 ※
土砂災害犠牲者慰霊式典と復興イベントの開催	県営緑ヶ丘・小原山地区土砂災害犠牲者慰霊碑建立推進委員会 ※
安心社会づくりのための危機対応「傾聴ボランティア」の養成	特定非営利活動法人全日本大学開放推進機構 ※
東日本大震災被災地生活基盤再生のお手伝い活動	たかしま災害支援ボランティアネットワーク「なます」
奈良発東北復興ボランティア	奈良復興地に学ぶ会
いのちの大切さ	虹色の音
東南海地震に備えて、楽しく学べる防災教育プログラムの作製と試行	特定非営利活動法人 姫路発 中高生のための東日本災害ボランティア
みわのわ 福島県双葉郡こどもサマーキャンプ	みわのわ
心と暮らしの歩みサポート交流活動	若者活動サポートセンターあおぞら ※

※ 印は広島県に拠点がある団体

[13件]

## 【研究助成】事故、災害や不測の事態に対する備えや防止に関する研究、発生後の心身のケアに関する研究

テーマ	研究者名（50音順・敬称略）
脳損傷患者の後遺症プロフィール評価ツールの開発	京都大学医学部附属病院精神科神経科 助教 上田敬太
超小型モビリティを活用した新機構車椅子の基礎研究及び提案	大阪産業大学 工学部 交通機械工学科 教授 大津山澄明
視覚障がい者の歩行支援システムに関する研究	神戸市立工業高等専門学校 准教授 尾山匡浩
自然災害時における仏教者の対人支援研究	龍谷大学世界仏教文化研究センター 博士研究員 金澤豊
救急医療法（仮称）制定に向けてのその内容及び手順に関する研究	(公財) 全国市町村研修財団全国市町村国際文化研修所 調査研究部長 小西敦
事故・災害等で大切な人を突然に亡くした遺族が死者の生きた証を伝承することの効果	関西学院大学 教授 坂口幸弘
古墳および遺跡に着目した災害履歴の抽出と防災まちづくりにおけるその活用方策	神戸市立工業高等専門学校 准教授 高田知紀
津波避難を想定した列車乗客向け情報配信基盤技術の開発と実証評価	和歌山大学システム工学部 准教授 塚田晃司
実写映像を援用した避難行動学習教材の開発	和歌山工業高等専門学校 教授 辻原治
日本の病院看護部の災害への備え意識の基礎的研究	梅花女子大学 准教授 西上あゆみ
言語音がわかりにくい高次脳機能障がい者に適した放送音声と付加刺激の工夫	兵庫県立大学 自然・環境科学研究所 准教授 三谷雅純
山間地域の高齢者住民の生活知を災害時の自助・共助に役立てるための基礎研究	関西大学人間健康学部 教授 村川治彦
浮遊型照明による3次元照明システムの構築	舞鶴工業高等専門学校 講師 室巻孝郎
携帯端末を利用した突発性災害発生の自動検知および避難誘導に関する研究	関西大学 准教授 和田友孝

[14件]



# 平成28年度公募助成活動紹介

平成28年度公募助成団体の昨年11月から今年3月までの間の活動(イベント)内容をご紹介します。  
さまざまな活動で皆さま活躍されています。



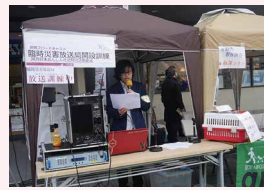
11月23日(水・祝)  
**和歌山動物愛護推進  
実行委員会**  
どうする?災害時に備えたペットの  
救護対策

行政や獣医師も連携して、災害時のペットはどうすべきかを公開議論によりシミュレーションをして、今後の課題を探る充実した内容でした。また避難訓練の反復もあり飼主の防災意識も高まっていました。



12月3日(土)  
**社会福祉法人  
和歌山のいのちの電話協会**  
電話相談員スキルアップ研修

実例を題材に相談員本人の振り返りや意見交換、それに対する臨床心理士による指導と中身の濃い実践的な研修でした。相談員のスキルアップは重要な課題だとあらためて認識できました。



12月4日(日)  
**特定非営利活動法人  
高槻ブロードキャスト**  
京都市中京区総合防災訓練における  
災害放送支援訓練

臨時災害放送局の開設訓練もかねたラジオ中継が行われ、被災した際の心がけなどをアナウンスしていました。道行く人たちが興味深く耳を傾けていました。



1月17日(火)  
**特定非営利活動法人  
震災から命を守る会**  
平成29年  
「1.17 阪神・淡路大震災からの教訓」

1月17日に児童向け防災イベントを実施している団体です。今年は約250名が参加し「楽しく防災にふれる体験プログラム」が催されました。防災クイズも行われ、子どもたちも喜んで参加していました。



1月29日(日)  
**社会福祉法人  
京のいのちの電話**  
電話相談員ステップアップ研修

9~11年目の相談員を対象とする、1泊2日で行われた研修でした。講義で相談スキルの向上を図るとともに、音楽を利用した癒し効果のあるプログラムもあり、相談員の心のケアも考えられた内容でした。



1月29日(日)  
**社会福祉法人  
奈良いのちの電話協会**  
電話相談員専門講座

市役所に勤めながら臨床心理の大学講師をされ僧侶でもある講師を迎えての講座でした。ご自分の体験談を交え、現在の児童福祉の問題から対応までをわかりやすくお話しされていました。



2月25日(土)  
**特定非営利活動法人  
多言語センターFACIL**  
通訳者が災害医療について学ぶ  
セミナー

英語、イタリア語などさまざまな言語グループごとに、災害現場での通訳のロールプレイングが行われたほか、インターネットを利用した「遠隔医療通訳サービス」の実践教育もありました。



2月26日(日)  
**朗読うつつしゅ**  
朗読「火垂るの墓」

舞台では照明、音楽が効果的に使用され、もんぺ、防空ずきん姿で感情のこもった朗読が披露されました。会場からはすすり泣く声も聞こえ、悲惨な出来事を起こしてはならないという思いが伝わってきました。



3月5日(日)  
**はすの会**  
講演会「愛することと悲しむこと」

事故や震災で家族を亡くした遺族の悲嘆に関する講演でした。涙を流す人の姿が見受けられ、心に深く届いている印象を受けました。「分かち合いの会」を開催し、胸の内を語り合う場も設けられていました。



3月9日(木)  
**NARA Will 奈良県立医科大学  
学生災害ボランティアグループ**  
医療系学生による福島県内の  
学生災害ボランティア復興支援活動

看護師を目指す学生が被災地を訪れ、血圧測定、マッサージなどを行うサロンを開設しました。ふれあひながら被災者の話に耳を傾けることで、傷んだ心の癒しの場となっていると感じました。

平成28年度公募助成の活動はこの3月をもって終了いたしました。4月より、平成29年度公募助成団体の皆さまが新たな活動をスタートしています。今年度も助成先の皆さまの取り組みをご紹介します。

# 平成29年度AED訓練器等の助成先が 決まりました

平成27年度より、公募によるAED訓練器等助成事業を実施し、救命処置の普及活動に取り組む団体を応援しています。本事業3年目となる平成29年度の助成先団体が以下のとおり決定しました。特に今回は、これまでの助成先の方からご要望があった、乳児・小児の訓練用人形を初めて提供(2団体3セット分)し、子どもの救命処置の啓発に活用していただくこととしました。

団体名 [9団体] (50音順)
特定非営利活動法人 エンゼルネット (京都市)
医療法人浩治会 介護老人保健施設 大今里ケアホーム (大阪市)
けあらん (神戸市)
大東市立大東中学校 (大東市)
垂水マミーズ (神戸市)
社会福祉法人 月の輪学院 (寝屋川市)
中仁野自治会 自主防災会 (姫路市)
B-NET@SAIDAIJI (奈良市)
防犯、防災および救護ボランティア チームTEC安 <sup>2</sup> (神戸市)



提供器具  
左から乳児用・小児用・成人用訓練人形、下はAED訓練器

訓練器の提供を受けて 助成先団体からコメントをいただきました

## B-NET@SAIDAIJI



このたび訓練器セットを提供していただきより感謝いたします。いただいた訓練器は、人々の命を守る希望の光そのものです。私たちが主催する「AEDたいけんわーくしょっぷ 命のリレー」は地域の人々に命を守るスキルを高めるための機会をより多く提供することを目的としており、救える命を救うため、この訓練器を活用します。

## 防犯、防災および救護ボランティア チームTEC安<sup>2</sup> (テック アンアン)



AED訓練器の助成ありがとうございます。神戸市消防局より講習実施団体に認定されている団体として、学校・企業・高齢者介護施設など、今まで以上に活動の幅を広げ、より質の高い講習を行い、救命処置の普及に努めるため有効に活用させていただきます。

# AED訓練器等助成活動紹介

平成27年度、平成28年度に訓練器を提供した団体の皆さまの活動を訪問しました。熱心に取り組まれている様子をご紹介します。

## 東五百住さつき自主防災会

近隣の東五百住自主防災会には応急手当普及員が不在のため、当財団からの提供器具とあわせて、消防から大人2体、ベビー1体を借り受けて、講習会が開催されました。参加者は全員、救命処置の大切さをよく理解されていて、有事の際には近隣自治会として、よい連携がとれ「安心な社会」を築くことができると感じる活動でした。

## 東播磨地域防災の会

地元自治会の地域住民を対象とした講習会で、参加者の半数以上は過去に救命講習を受けたことのある方でしたが、ガイドライン2015に沿って手順やポイントを確認しながら進められていました。定期的を受講することの重要性を感じる活動でした。

## 青少年野外活動総合センター

キャンプカウンセラーを対象に講習が行われ、体に覚えさせることで、いざ救命処置が必要な場合に遭遇した場合に臆することなく行動できるよう何度も繰り返して実技が実施されていました。また、大人だけでなく、小児や乳児の救命処置を詳しく解説する講習もあり、参加者の真剣な眼差しが印象的でした。



# いのちを尊ぶ社会をめざして

講師：尾木 直樹氏（尾木ママ）

教育評論家、臨床教育研究所「虹」所長、前法政大学教授



平成29年1月15日（日）、松下IMPホールにて「いのちのセミナー」を開催しました。今年度は、尾木ママこと尾木直樹先生にご講演いただきました。「いのちを尊ぶ社会をめざして」との演題で、「いのち」「愛」「こころ」の3つのキーワードに触れながらご講演くださいました。尾木ママは客席から登場され、来場された方々と距離の近い、あたたかい尾木ママワールドの中での講演となりました。その講演内容の一部をお届けします。

## 「先生、大変だ！あそこにみんな乗っているんだ！」

1年前の今日、1月15日、軽井沢のスキーバス転落事故で法政大学の私のゼミの学生4人が亡くなりました。命の重みや、命を落としては取り返しがつかないということを、子どもたちにはこれまで何度言ったかわかりません。事故の当事者になって初めて辛さと悔しさがわかりました。メディアの方が「1年

経って先生どうですか？」「このような事故を二度と起こさないために、社会に訴えることを発信してください」とおっしゃいますが、まだ進行形、真っ最中です。当事者にとっては毎日毎日が闘いでそんな余裕はありません。よく言いますが、時間軸が私たち当事者には2本あるのです。1つは、こうしてとどろき日が経過していくリアルな時間軸。もう1つは、昨年1月15日で止まったままの時間軸です。ご遺族は、お子さんの部屋を出かけて行った時のそのままにしていっぱいいます。スマホも解約していま

せん。スマホを解約したら子どもと連絡が取れなくなってしまうとおっしゃるのです。その気持ちは本当にたまらないものです。

## 寄り添い、共感する

これまで大変だったことを振り返ってみて、いろんなことが学べました。やっぱり一番よくないのは、「頑張れ」と言って励ますことです。私たちは「頑張れ」という言葉を励ましの意味でよく使っていますが、弱っている方、精いっぱい頑張っている方に「頑張れ」という言葉は禁句だと思います。励ますことよりも寄り添うことがとても大事です。

それから、聴いてほしいのです。聴くということがとても大事だと思います。話を聴いて、「それは大変だったね」と相づちを打つ。この相づちを共感といいいます。共感が人間関係において、子育てでも教育でもきわめて重要です。この共感が人を元気づけます。心理学ではエンパワメントと呼ばれています。パワーを与えるのです。「頑張れ」ではなく、「それはつらかったね」と受け止めて一緒に涙を流してあげればよい。何も言葉は要らないのです。

## 「ありのままに今を輝く！」

私は、「色紙にサインしてください」と言われると書くセリフが2通りあります。1つが「ありのままに今を輝く！」。この言葉がとても好きなのです。もう1つは「愛とロマン！」です。ロマンのないところに教育も子育ても成り立ちません。「こんな素敵な人になってほしいな」というロマンや愛があってこそ、人は育ちます。

私はゼミの学生の就職の指導もしていますが、学生に「自分の弱点を素直にアピールしなさい」と言っています。自分の弱いところを面接の場で堂々と言えることは、非常に謙虚で、自分を客観的に見ることができていることとなります。だから、「ありのままに今を輝く！」はとても大事です。今を輝いていれば、明日も輝く。明日も輝けば1週間後も、1年後も輝いてくるのです。将来のためにとにかく今は我慢をしてという人生ではなく、「今を輝く！」という輝きの積み上げをしていく生き方がいいと思います、学生にも勧めています。



## 「私はこう思うけど、あなたはどう思う？」

生きていく上で、自分で決めるということも大事です。ただ自分で決定するということは、失敗したときは自己責任になります。成功したときは、「やっぱり自分で決めてよかった」ということで自己肯定感が膨らんでいきます。アドバイスをする側としては、「私はこう思うけど、あなたはどう思う？」という目線で、判断を押しつけないようにしてください。人に決めてもらったほうが楽ですが、自立することを意識しましょう。高校駅伝の強豪である三重県の高校の陸上部は、部のスローガンが「自立」です。自分の頭で考えて、自分で行動しろということで、放課後の練習メニューも全部各自で決めます。自分で決めたことだから、サボるわけにいかない。敵は己です。自分が決めた目標を守れているか振り返ることを繰り返していくと、人から言われるのではなく自分が決めたことに対してどうなのか、どう輝いているのかというのを客観視することができるようになります。長時間トレーニングすればいいというわけではありません。心のあり方がすごく大事です。「いのち」「愛」そして「こころ」。これらがとても大切なのです。

## 豊かな人間関係を築いて安心な社会を

大人に対しても子どもに対しても、よくないことをした人には、責めるのではなく「どうしたの？」とまず声をかけて、聴いてあげてください。それから頭ごなしに注意するのではなく、まずは「それは大変だったね」と共感してあげてください。怒りではなく、寄り添い、共感を大切にしてコミュニケーションをしてください。

豊かな家庭、親子関係、仲間関係を築き、被害に遭って大変な思いをしておられる人たちの話を聴いて「それは大変だったね」と言えて、エンパワメントしていけるような安心な社会を築いていければいいなと思っています。



# たましいの痛みに寄り添う ～ターミナルケアの現場から～

講師：藤井 理恵氏

淀川キリスト教病院 チャプレン(病院牧師)



平成24年度より、死や悲嘆・グリーフケアをはじめ、多様な観点から「いのち」に焦点を当て、ともに考える連続講座を開催してきました。これまで、のべ94名の講師の方々に講演していただき、「いのち」についてあらためて見つめ直すきっかけになった等のお声を多くの聴講者の方から頂戴しました。第13回目となる連続講座「『いのち』を考える」～悲しみとともに生きていく～を、平成29年1月24日から2月28日までの毎週火曜日に毎日新聞オーバルホールにて開催しました。その第1週目1月24日の講座の一部をお届けします。

## たましいの痛み

チャプレンとは、教会以外(病院や学校など)の施設付き牧師のことをいいます。私は病院で働くチャプレンとして丸26年、たくさん入院中の患者さんやそのご家族のたましいのケアに携わってきました。

私が毎日出会っている患者さんは、決して身体的にのみ痛んだり苦しんだりしておられるわけではありません。例えば医療費

などの経済的な問題や、看護、介護にかかわる家族関係の問題など、さまざまな問題でも苦しんでおられます。また、病気になるまで毎日充実して過ごしていた方が病気になる入院されたとき、「私の人生って一体何だったのだろう」と、これまでの自分の人生や自分の存在までをも否定しかねない問いが投げかけられることもあります。人間の存在にかかわるような問いの形であらわれてくるもの、存在の根底を揺さぶるような形で問いかけるもの、これはたましいの痛みだといえます。

## ヨコの関係

そのようなたましいの痛みとか悲しみに寄り添う人がいることで、その間に向き合う力や勇気が与えられるものだと思います。それは家族であったり友人であったりしますが、チャプレンもそういったヨコの関係の中でその人を支えるものでありたいと願っています。そのような人であるために私が大切にしていることを少しご紹介します。まず、聴くということです。皆さんもお見舞いに行かれたときに、思っていたよりも重症で、言葉を失ってしまうという体験をされた方もいらっしゃると思います。気まずい沈黙を避けようとして何か言わなくてはと思うあまり、「頑張ってね」や「よくなるよ」と言ってその場をしのいで帰っていかれるのですが、患者さんたちは必ずしもその沈黙を埋めてほしいとは思ってはいないのです。沈黙も実は次の語りへの必要なときでもありますので、その沈黙も聴くというつもりでそばにすることがとても大事だと思います。

次に寄り添うということです。寄り添うことには、大きく2つあると思います。1つは物理的にそばに寄り添うということ、もう1つはその方の気持ちや思いに寄り添うということです。苦しむ人の傍らでその人を否定せずに支えてくれる人の存在はとても大切です。そういう人の支えの中でいろいろな問いかけへの答えを見つけ、問いに向きあう勇気が与えられていくのではないかと思います。

## タテの関係

一方で、ただ誰かがそばにいてくれたらどんな答えも見つかるかという、そうでもありません。どんなに理解して、また共感しようとしてくれる人がいても、心の中には人によって埋められないものがあるのです。そこでは、人間を超えた存在、ヨコではなくタテの関係-私にとっては神様ですが-、その関わりが大切になってきます。私は宗教を押しつけることなど一切しませんが、永遠のものや絶対的な存在との関わりがなければ越えられない苦しみの中にある方にはチャプレンとして神様のことをお伝えしています。

人は、元気なときには効率性や生産性の高い人に価値があって、そうでない人は価値がないとみなされることが多いと思うのです。そのような価値観で生きている人が病気になって何もできなくなっていくときに、自分の存在価値を認めることが難しくなるわけです。しかし、キリスト教の立場からいいますと、たとえ何もできなくても、そこに存在していること自体が神様にとっては尊いということです。何かで自分を守る必要や飾る必要もない。そのまま大切にされている、そういう世界なのです。

## 与えられた『いのち』

私たちはいつもどこかで自分を絶対として生きていると思うのです。病院でよく「私の命に意味なんてあるのでしょうか」と言われる方がおられます。意味がなかったと結論づけている方も



いらっしゃると思います。考えてみますと、私たちに自分の人生がこうあってほしいというさまざまな理想や願いというものがある、その願いの側から自分の人生を眺め、そのとおりにかなっていく人生こそが意味のある人生だと捉えています。でも、考えてみると人生には思いどおりにいかないことがたくさんあって、というよりむしろ思いどおりにいかないことのほうが多いのが人生だと思うのです。そのことがなかなか受け入れられなくて、その苦しみの中で自分の人生に意味なんかあるのだろうかとか問かけるわけです。これは自分の人生における願いや理想というものをやはり絶対としているところからくる、そういう問いなのだろうと思います。

でも、この問いも聖書に照らしてみると少し違っているように思います。私たちのいのちは自分でつくり出したものではなく、神様から与えられたものだと思います。与えられたものであるなら、それは全て自分のものであるかのように思いどおりにコントロールすることはできません。突然の病気もそういうことだと思います。だから、それまで自分で自由にできると思い込んでいたのちや人生そのものを、自分の思いどおりにしなくてはならないと握りしめるのではなく、一旦手放し、与えられたもの、預かっているものとしてもう一度受け取り直すという心の作業が必要です。

私たちは時代を選んだわけでもなく、性別を選んだわけでもなく、親を選んできたわけでもありません。私たちはいのちを与えられて、ここに置かれています。それだけで既にいのちは意味なのです。たしかに思いどおりにはいかないかもしれないし、その中で出会う悲しみも痛みもいっぱいあるかもしれませんが、いのちを与えてくださった神様は必ず一緒にいてくださって、生き抜くのに必要なものを用意してくださっています。だから、そのいのちを引き受けて生きていく時に、神様が「生きられるように」と用意してくださった事柄や人に出会わされ、いのちや人生そのものが意味であることを少しずつでも知らされていくのです。そこに希望があることを信じ、私自身、与えられたいのちを生き抜いていきたいと思っています。

連続講座「『いのち』を考える」は、今回の第13回をもちまして終了いたしました。これまでご協力いただいた講師の皆さま、講座にご参加いただいた皆さまに心より感謝申し上げます。ありがとうございました。新しく始まるセミナーの予定につきましては、裏表紙のお知らせをご覧ください。



## 平成29年度公募助成イベント情報

平成29年度の公募助成先団体の活動予定をご紹介します。内容等の詳細は、各団体へ直接お問い合わせください。

### 忘れない 4.25追悼のあかり

兵庫県尼崎市で発生したJR福知山線列車事故から12年の今年、4月25日の前日に事故現場でろうそくの灯りとともし、事故の記憶を風化させない遺族の願いを発信します。

日 時：4月24日(月) 18:00～21:00  
場 所：JR福知山線列車事故現場  
問合せ：忘れない 追悼のあかり実行委員会  
TEL・FAX:072-940-6356  
MAIL:mac.ueda@gmail.com

### 緊急時避難子ども119番 「第二回幼・保育園児緊急時 避難訓練」

近隣の児童館、幼稚園、保育園の園児約150名が参加しての避難訓練を行います。

日 時：5月9日(火) 10:30～12:00  
場 所：広島市立祇園中学校体育館  
問合せ：祇園地区青少年健全育成連絡協議会  
TEL: 082-874-0071  
FAX: 082-875-0770  
MAIL: yosi16yama12@gj8.so-net.ne.jp

### 救護講習

救護の実技をはじめとした、災害対応に必要な知識に関する講習を行います。

日 時：5月21日(日) 10:00～11:00  
※毎月開催予定  
場 所：京都市勤業館みやこめっせ地下会議室  
問合せ：救援ボランティア左京  
TEL: 075-771-0366  
FAX: 075-781-5035

### 高次脳機能障害者のグループ 訓練後におけるフォローアップ 及び専門職スタッフへの支援体制

午前は今後の展望やセラピストの役割についての講演、午後はスタッフを交えてグループワークを行います。

日 時：6月11日(日) 10:00～15:00  
※11月も実施予定  
場 所：市民交流プラザふくちやま  
問合せ：中丹高次脳機能障害者と家族の会「さくら」  
TEL・FAX:0773-22-7859  
MAIL: s-uehara@zpost.plala.or.jp

### 第5回ひまわり広場

被災住民同士の交流や音楽コンサート、また8月20日の慰霊式典に咲かせるひまわりの種植えを実施します。

日 時：6月18日(日) 10:00～14:00  
場 所：広島県営緑ヶ丘住宅 集会所  
問合せ：県営緑ヶ丘・小原山地区土砂災害犠牲者慰霊碑建立推進委員会  
TEL: 090-3633-3205  
FAX: 082-553-0205  
MAIL: supporter@makasensai.com

### 海洋療法を用いたストレスケア

事故や災害でストレスに晒された心を、海洋において発散と癒しによるストレスケアを実施します。

日 時：7月16日(日) 11:00～17:00  
場 所：和歌山県 白崎海洋公園  
問合せ：特定非営利活動法人  
オーシャンゲート ジャパン  
TEL・FAX: 06-6212-6277  
MAIL: oceangate@fancy.ocn.ne.jp

## 平成29年度いのちのセミナー ～いのちを見つめて いまを生きる～ 開催のお知らせ

これまで、連続講座「『いのち』を考える」(春・秋・冬の3期)と、いのちのセミナー(年1回)を開催してきましたが、これらを統合し、平成29年度からは新「いのちのセミナー」として講演を開催いたします。募集は各講演毎に行います。現在、以下のとおり予定しております。募集を行う際には、当財団ホームページや京阪神の駅等でお知らせいたします。

#### 平成29年5月28日(日)

募集は終了いたしました

講 師：岸見 一郎  
哲学者



#### 平成29年8月18日(金)

時間：18時30分～20時00分  
会場：毎日新聞オーバルホール

講 師：釈 徹宗  
相愛大学教授、如来寺住職  
NPO法人リライフ代表



#### 平成29年10月6日(金)

時間：18時30分～20時00分  
会場：毎日新聞オーバルホール

講 師：若松 英輔  
批評家  
随筆家



#### 平成29年10月27日(金)

時間：18時30分～20時00分  
会場：毎日新聞オーバルホール

講 師：本郷 由美子  
大阪教育大学附属池田小児童  
殺傷事件被害者遺族、精神対話士



#### 平成29年11月24日(金)

時間：18時30分～20時00分  
会場：毎日新聞オーバルホール

講 師：川島 実  
医師  
華厳宗僧侶



#### 平成30年1月12日(金)

時間：18時30分～20時00分  
会場：毎日新聞オーバルホール

講 師：佐々木 慈隆  
音羽山観音寺副住職



#### 平成30年3月4日(日)

時間：13時30分～15時00分  
会場：松下IMPホール

講 師：名越 康文  
精神科医、相愛大学客員教授  
高野山大学客員教授



(敬称略)

### 広報誌「Relief」をリニューアルしました！

今号より、当財団の取り組みを多くの方々にもっと知っていただけるよう、デザインを一新いたしました。そこで、読者アンケートを実施いたします。誌面への率直なご感想や、当財団へのご意見等をぜひお願いいたします。お答えいただいた方の中から、抽選でプレゼントを差しあげます。ご回答はホームページのみとなります。(http://www.jrw-relief-f.or.jp/enquete/)



#### 編集後記

新年度がスタートしました。平成29年度公募助成先が決定し、新たな事業も始まります！これから、たくさんの情報をお届けしてまいりますので、ご期待ください！(Y)

#### 広報誌「Relief」平成29年4月号(vol.27) 【表紙写真：平成29年度公募助成贈呈式にて】

Relief(リリーフ)には「ほっとする、安堵。安心」といった意味があります。当財団は、「安全で安心できる社会」の実現を目指した事業に取り組んでいます。

編集発行/公益財団法人JR西日本あんしん社会財団 〒530-8341 大阪市北区芝田二丁目4番24号  
TEL: 06-6375-3202 ホームページ: http://www.jrw-relief-f.or.jp/

